

巻 頭 言

数多くの優れた作品を残した海音寺潮五郎は、史伝作家の第一人者であり、鹿児島県が生んだ偉大な作家として知られています。また、第三回直木賞を受賞している作家としてはもとより、NHK大河ドラマだけでなく、映画化もされた「天と地と」の原作者としても有名です。

当館ではこの海音寺潮五郎の文業をたたえ、功績を後代に伝えるとともに、本県文化振興のための学習機会を提供しようと、鹿児島県高等学校文化連盟の後援をいただき、本年度も海音寺潮五郎記念文芸ゼミナールを開催いたしました。

文芸ゼミナールでは、全八回にわたる講義・演習を通して、県内で活動されている作家の方から執筆活動の進め方を御教授いただき、受講生が作品の完成を目指してまいりました。また、第六回においては、特別講師として直木賞作家の「川越宗一先生」をお迎えし、執筆の際の苦労や喜び等を直接お聞きすることで、受講者の更なる意欲につながる講座となりました。

現在、「論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること」（『高等学校学習指導要領解説 国語編』）が求められています。

当ゼミナールは、これらの能力や態度の育成に資するとともに、受講生が本格的に執筆活動について学ぶ、かけがえのない機会となったことと考えています。

今年度はコロナ禍に見舞われましたが、受講生は、日々学業や部活動を行いながら真剣に執筆活動に取り組み、小説への思いを新たにしたことでしょう。ここに掲載している「十二作品」からも、受講生が文章を練り上げる力を着実に身に付けている様子がうかがえ、大変うれしく思います。

最後になりましたが、当ゼミナールの実施に当たり、本年度も受講生を温かく作品完成へと導いてくださいました立石富男先生、出水沢藍子先生に心から感謝申し上げます。先生方に御指導いただきましたことは、受講生にとって貴重な財産として今後の生活の中に生かされることでしょう。さらに、受講生の執筆活動に対する一層の意欲や、執筆活動の道を志す可能性も高めていただけたのではないかと思っております。

今後、この作品集『潮音 若人の樹』にふれた県内の高校生が、一人でも多く小説を創作することの楽しさを感じ取り、興味を持ってくれることを願っています。

令和三年三月

鹿児島県立図書館長

原口 泉